

第 6 章

5S イノベーションを目指して

モノづくりは躰づくり

職場ルールやエチケットを守る、これは会社生活の基本

1. 継続的改善の実現へ

5Sの中心に「躰」を置くことです。しかし躰をさらに広い視点でとらえるならば、それはモノづくりの要ともいえます。それほどに躰は、企業活動にとって重要なことです。

モノづくりを極めていけば、やがて「人」に行き着きます。製品の良し悪しは、結局、それをつくった人の良し悪しでもあります。なぜならば、「モノづくりは人づくり」と言い替えることもできるからです。やはり人が基本です。その人を育て、伸ばしていくのは躰です。

決めたことが守れる社員づくり、企業づくりを通じて、ムダとりによる価値作業の集積と設備可動率向上につながります。そうであるなら、「人づくりは躰づくり」であり、「モノづくりは躰づくり」ということになります(図1)。

まず最初は、一般的な社会規範としての型を身に付けているかということです。

- ① 嘘をつかない。隠しごとをしない。言い訳をしない
- ② 守らない、守れない、守りにくい理由を聞く
- ③ 後から使う人の身になって行動する
- ④ 身だしなみを守る
- ⑤ 喫煙のマナーを守る

これらの実践により、“後工程はお客様”の思考が培われます。しかしモノづくりでは、それに加えPQCDSEM(生産性・品質・コスト・納期・安全・環境・モラル)に固有技術といった工場特有の型が要求されます。

たとえば、次のものがあります。

・あいさつ 「おはよう」はすべてのはじまりである。オアシス運動の定着に努め、欠勤や遅刻を

しない土壌を作る。また、一日中、「ご安全に！」というあいさつで通している企業もある。

- ・品質 品質は工程でつくり込め
- ・保全 作業の前にまず点検(日常点検の励行)
- ・作業 作業手順の厳守・基本作業の励行
- ・安全 安全はすべてのことに優先する

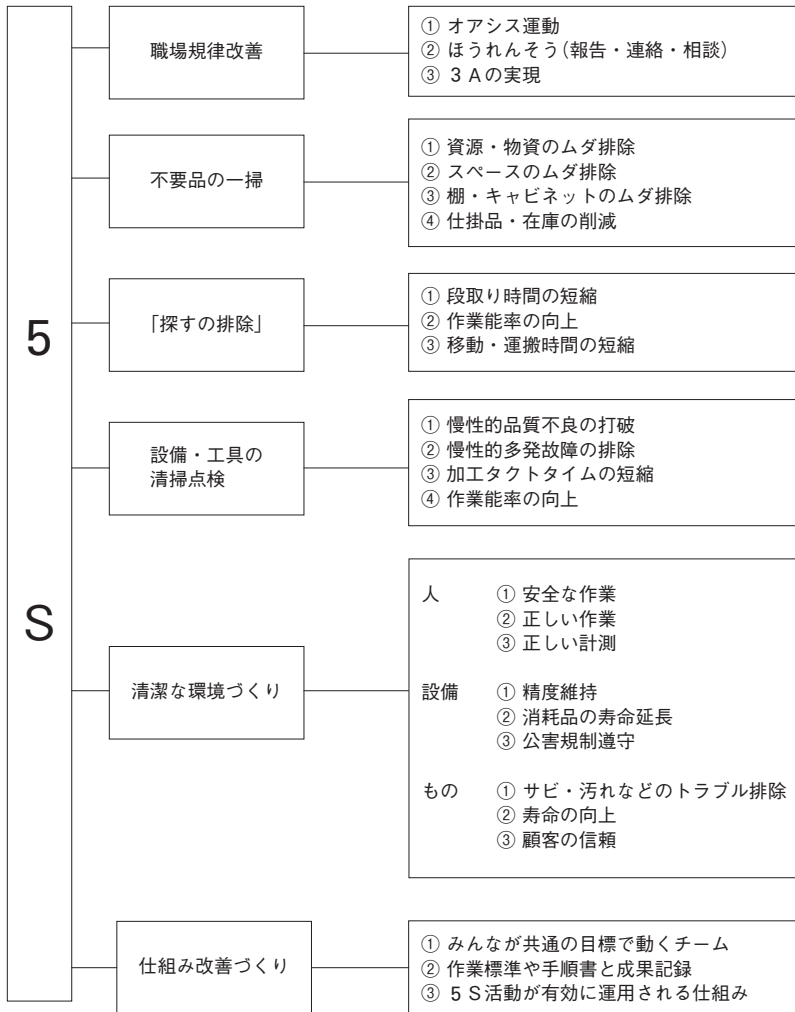
こうしたモノづくりの守るべき躰の型を、身に付けるべく実践します。そして、これらの型から自分なりの形をつくっていきます。たとえば、まず保護具を着用し、“作業の前にまず点検”について、点検ポイントと点検順序を頭に入れ、毎朝作業前に「〇〇ヨイカ!」「〇〇ヨシ!」と指差呼称します。事故災害が発生しそうになったけれども、身に付いた朝の「作業前点検」で事故から身が守れた、「〇〇ヨイカ!」「〇〇ヨシ!」の指差呼称が安全を守ってくれた、という事例もあります。決められた5Sを守ることが、「自分を守る気持ち」にもなります。

職場は、集団の共同作業で成り立っています。工具などの共用物は、各自が使ったら必ず定位置に戻します。これを怠ると、同僚がモノ探しに時間を取られ、生産に支障を来して後工程に迷惑をかけることとなります。決められた職場ルールやエチケットは必ず守るように心がけたいものです。

2. ムダの温床を除く

仕掛品が工程間で停滞することなく、スムーズに流れていることが理想です。間締めをせずに放置した空間は、ムダの温床になります。つくり置きを放置したスタッフが悪いともいえます。理想は徹底したムダとりであり生産の整流化です。整理・整頓の2Sや間締めをしっかりやって、後工程引き取りへと展開していきます。

図1 モノづくりは躰づくり



注) 3Aはあわてず、あせらず、あきらめずの意味